

# 三原市(中国ブロック)

【計画期間 平成27年12月～33年3月】

・明治～：山陽鉄道の敷設、糸崎港の特別輸出港指定等により、大規模工場が建設され工業都市として発展。

・昭和～：山陽新幹線三原駅の開通を機に、市街地再開発事業等が推進され、本土と四国、島しょ部を結ぶ交通拠点の商工業都市として成長。

・平成17年に合併し、現在、人口98,879人(平成26年)、面積471.02km<sup>2</sup>(平成22年)

## 【中心市街地をめぐる状況】

○中心市街地内にJR三原駅、バスターミナル、三原港、近隣には広島空港があり、陸海空の交通の利便性が高い。

○中心市街地内にある大型ショッピングセンターに集客が偏っており、中心市街地全体でみると商店街の商店数、従業員数、年間販売額が減少している。

## 【中心市街地に関する指標の推移】

○JR三原駅の1日当たりの乗降者人員数

H15:13,676人 → H25:12,694人(▲982人、▲7.2%)

○小売業事業所数及び小売業年間商品販売額

H16:242店 → H24:196店(▲46店、▲19%)

H16:26,553百万円 → H24:22,232百万円  
(▲4,321百万円、▲16.3%)

## 【目指す中心市街地像】

「おもてなしのこころでつくる、にぎわいのある、暮らしやすい、歴史・文化が薫るまち」

目標	指標	現況値	目標値
賑わいの創出	歩行者・自転車通行量 (平日・休日)	(平日)24,373人/日 (休日)14,175人/日 (H26)	(平日)24,560人/日 (休日)14,900人/日 (H32)
	JR三原駅の1日当たりの乗降者人員数	12,694人 (H25)	13,200人 (H32)
商業の活性化	小売業事業所数及び小売業年間商品販売額	196事業所 22,232百万円 (H24)	200事業所 22,767百万円 (H32)
	商店街の空き店舗数	43件 (H24)	28件 (H32)
街なか居住の推進	居住人口	7,623人 (H26)	7,810人 (H32)

### 賑わいの創出

#### 【主な事業】

- ・駅前東館跡地活用整備事業
- ・山脇邸リノベーション事業
- ・港湾環境整備事業
- ・シネパティオ再生事業
- ・港湾エリア商業施設リノベーション事業
- ・三原城跡周辺整備事業及び三原城濠浄化事業
- ・大規模商用施設増床事業 など

### 商業の活性化

#### 【主な事業】

- ・駅前東館跡地活用整備事業(再掲)
- ・山脇邸リノベーション事業(再掲)
- ・シネパティオ再生事業(再掲)
- ・大規模商業施設増床事業(再掲)
- ・空き店舗バンク事業
- ・中心市街地空き店舗対策事業
- ・商店街空きビル再生活用事業
- ・起業化促進事業 など

### 街なか居住の推進

#### 【主な事業】

- ・空き家バンク事業
- ・本町エリア空き家及び居住環境調査事業 など

# 三原市中心市街地活性化基本計画の事業概要

## 賑わいの創出

### ①駅前東館跡地活用整備事業

駅前に集客拠点として図書館を含めた公民複合施設や広場、駐車場等を整備し、来街者や滞留時間の増加を図る。

### ②三原城跡周辺整備事業

- ・市のシンボルである三原城を市民の憩いの場や交流場として整備し活用する。
- ・中心市街地に点在する遺構や城門等の整備も行うことで、観光客の誘客により賑わいを創出する。



三原城跡イメージ図

### ③瀬戸内三原 築城450年事業

平成29年の三原城築城450年に向け、やっさ踊り等の歴史的・文化的資源を活用した賑わいを創出する。

## 商業の活性化

### ④シネパティオ再生事業

民間活力による商店街における商業ビルのリノベーション事業。カフェや貸し会場等を設置し、商店街に新しい機能を創出する。



### ⑤山脇邸リノベーション事業

歴史的建物を整備保存するとともに、交流施設を備えた施設としてリノベーションし集客拠点とする。

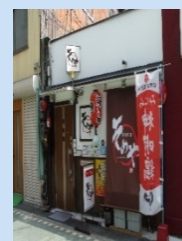


### ⑥中心市街地空き店舗対策事業

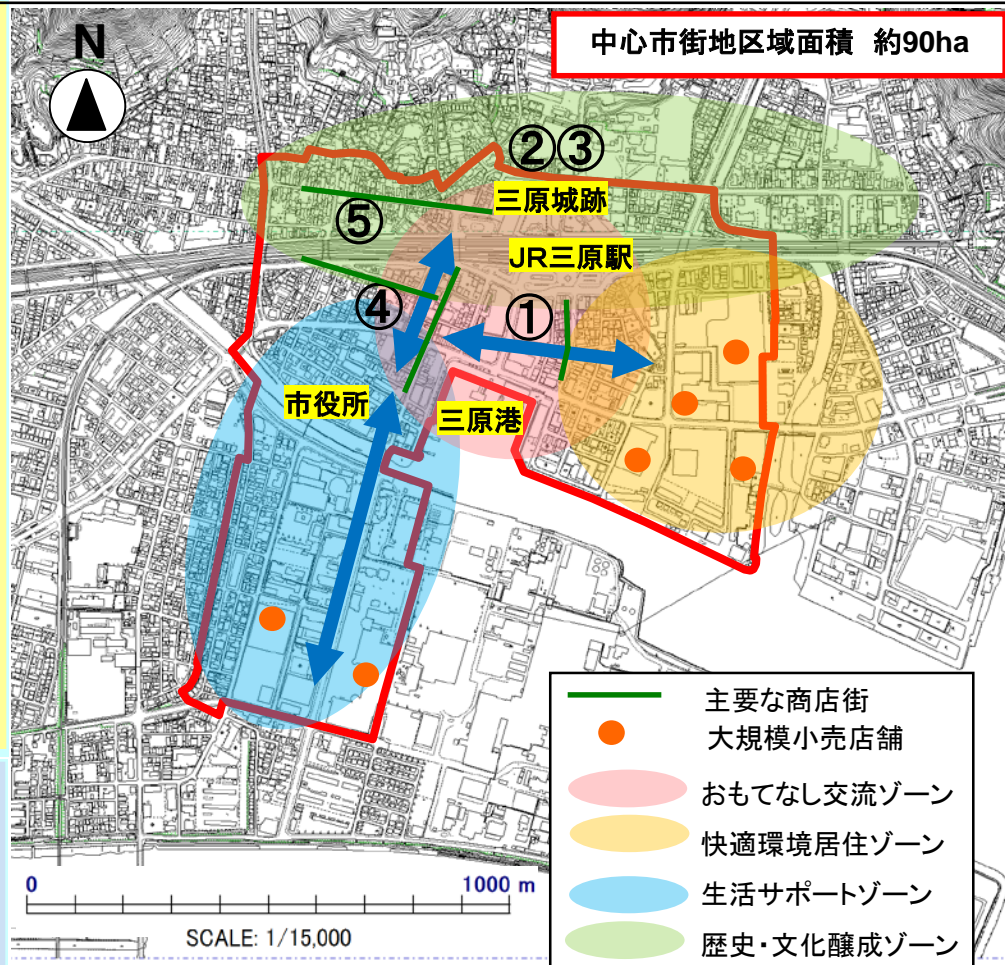
コーディネーターを中心に空き店舗と空き店舗利用者とのマッチングさせ、新規出店者に店舗改装費等を補助することで、魅力ある店舗の増加を図り、賑わいを創出する。



改修前イメージ



改修後イメージ



## 街なか居住の推進

### ⑦空き家バンク事業

空き家所有者と利用者とのマッチングを行い、空き家を有効活用することにより、居住人口の増加につなげる。